

はじめに

「自然が好き！パワースポットのような心地よい家を建てたい。でも、方法がわからない」
「風水は、一度体系的に学びたいけど、新築住宅の設計にどれだけ役立つかわからない」
「要望はいろいろあるけど、自分の要望通りの家が住み心地の良い家なのかかわからない」
「感覚的に心地よさとか心地悪はわかるけど、どう言葉で表現していいのだろう」
「風水の家ってどんな家ができあがるの？全然イメージできない。新築の風水設計は不安」

こう思ったことがあるなら、この本はあなたのものです。自然と調和するパワースポットのような心地よい空間を、再現性をもって論理的に作り上げる方法があります。それは、「琉球風水を使って、氣の流れを整え、調和をとること」これだけです。「ちょっと待って、琉球風水？何それ？」「普通の風水とどこが違うの？」「風水って運気を上げる、下げるとかそういうものじゃないの？」そう思ったあなた。その通りです。いわゆる「風水」と「琉球風水」、どこが違うのか？まずはそこから説明しましょう。

はじめまして、琉球風水師の東道里璃です。私は、現在、沖縄で琉球風水を使い、建築・インテリア設計の仕事をしています。目に見えない氣の流れをあやつる、心地よく美しい空間作りは、一流の建築士、インテリアデザイナーからも信頼されています。住宅に関わる専門家を対象にした講演や、沖縄県最大の住関連イベントなどで講師を務め、これまで1000人以上の方が琉球風水セミナーを受講されました。新築住宅設計や、店舗設計、ホテルのインテリアコーディネートなど、建築、インテリアの現場で、琉球風水は、建築士やインテリアデザイナーとコラボレーションしています。

今でこそ沖縄に住んで、建築・インテリアの仕事をしていますが、私が琉球風水と出会ったきっかけは、2度にわたる新築住宅設計の失敗です。1999年、初めての新築の家。新しい家に住むのは夢いっぱいのはず。しかし、理由はよくわからないけど、なんとなく住み心地の悪い家に、当時の私は不平不満しか抱くことができませんでした。料理をする時、掃除をする時、、暮らしの様々なシーンで、家を憎んでいました。

「もう、こんな家に住むのは、嫌だ！」新しい家に住み始めてすぐにできた目標は、「自分が本当に住みたい家を建てること」。資金的な余裕ができて、2007年に二軒目の家を建てようという時に出会ったのが、風水です。その時、東京で学んだのは、インテリアや暮らしの環境を改善して、運気をあげるのが目的の風水でした。学校で習ったことを実践すると、住環境が快適になり、心のあり方もどんどん変わっていきました。私は風水に夢中になり、必死に勉強する毎日を過ごしました。

しかし、風水の本を片手に、方位にこだわって建築士に要望を出すと、どんどん住み心地が悪い間取りになりました。高額な設計料だけ支払って、結局その家は建ちませんでした。「風水とは、既存住宅では機能しても、新築住宅の設計には通用しない」と悟りました。家づくりをきっかけに学び始めた風水ですが、風水の理論や哲学が本当に面白くて、いつの間にか、風水を仕事にしたいとも思っていました。しかし、一方で、間取りの方位が良いとか悪いとって人を不安にしたり、色や置物で人の欲をあおるような側面をもつ風水には、人生をかけて伝えてるほどの熱意を持つことができませんでした。私はスクーバダイビングやトレッキングが趣味で、自然が大好きです。「これからの人生、地球環境問題の解決ができることに、自分のスキルや能力を使っていきたい」という想いがありました。なので、家づくりに失敗した後、「風水は楽しいけど、趣味程度に抑えておこう」、その位の距離感で風水と付き合っていこうと決めました。

そんな私が、なぜ、今、建築・インテリアの風水設計の仕事をしているのか。それは、東日本大震災を機に東京から沖縄に移住し、琉球風水との運命的な出逢いがあったからです。私が沖縄で一番最初に住んだ家は、自然豊かな離島の集落にある敷地面積200坪、築180年の琉球民家です。家の背後には小高い山があり、敷地は防風林の役割も果たす高さ15mほどのフクギの木々が、家を囲うように植えられていました。家の中から外を眺めると、アイボリーホワイトにほんのリピンクがまざった大輪の月桃(げっとう)の花や、丸くて肉厚のフクギの葉など、美しい自然の風景だけが目に入ります。家の前面はフルオープンになっていて、その大きな開口部から木陰をすり抜けてきた南風をたっぷり取りこみます。沖縄の真夏でもエアコン無しで過ごせる心地よさでした。まるで、風水の古典に出てくる理想的な立地条件の一つ「四神相応(しじんそうおう)」の考え方によって作られているようでした。「四神相応」とは、風水的にパワースポットを作り上げるための基本的な地勢の構造であり仕組みです。東京という大都会に住んでいた時には、風水の古典理論を読んでも、昔話くらいにしか思っていませんでした。東京の住宅事情では、「四神相応の家なんて、現代ではどうやってもできないでしょう」と思うことしかできなかったのです。

私はさらに視界を広げ、風水の視点で集落を歩いて見てみました。すると、その島にある3つの集落は、どこも背後に山があつて、前方に海があり、集落が南側を向いています。そして、集落の中のどの家も、北側の山を背にして、前面の大きな開口部が南側を向いていました。集落そのものが四神相応の考え方に沿っている事に気付きました。個人宅の風水が良いだけであれば、家主のこだわりです。しかし、集落が風水で作られたのであれば「政治レベルで風水が使われたのではないか」と直感的に思いました。ゾクツとした感覚と共に急いで家に戻り、パソコンを開いて「琉球風水」について調べました。すると、中国留学から帰国した琉球王府の役人達が、風水思想をベースに各集落を設計していたのです。さらに、300年前に書かれた首里城の風水鑑定報告書が存在することがわかりました。「琉球王国とは、風水王国?! 沖縄ってなんてすごいところなの!」。誰もいない琉球民家の一番座で、一人身震いしたことを鮮明に記憶しています。本で学んだ古典の風水理論と、本物の風水集落、風水住宅が繋がった、ブレイクスルー体験でした。

日本でよく知られている風水と琉球風水がどのように違うか、少しイメージがわきましたでしょうか。日本の一般的な風水は「八方位」から考え、置物や色、間取りの方位など、部分的な方法論で運気を上げることを目的にしています。一方、琉球風水は、自然との調和を思想の軸に、安心・安全・快適に暮らすための環境学。国家政策に使われてきました。建築・インテリア設計にも通用する理由は、「四神相応」の考え方に基づき、構造的に氣の流れをデザインするからです。さらに、「陰陽論」を使うことで住宅全体の氣を調和させ、心地よい空間を作ります。陰陽論とは、古代中国の哲学で、宇宙に存在する全てのものを陰と陽の2つに分類し、相対する存在のバランスの取り方を教えてくれる考え方です。

しかし、残念ながら、沖縄でも八方位の考え方で「方位」を中心に間取りやインテリアの要望を出される方が多いのが現状です。現場のデザイナーは四苦八苦しています。「風水の方位の要望を聞き入れると、生活動線が悪くなるのがわかっていながら、図面を描いてきました。私に本物の風水の知識があれば、お客様に説明できたのに...」「風水は苦手です。風水を入れたいとこの要望で、同じ部屋に、南に赤いカーテン、西に黄色いカーテンをコーディネートしました。デザイナーとしては、複雑な気持ちです」このように、風水にネガティブな経験がある建築士・インテリアデザイナーはたくさんいらっしゃいます。しかし、琉球風水をベースにした「風水空間デザイン」については、「面白い」「もっとよく知りたい」と言われます。なぜか? それは、お客様へ風水対応ができるだけでなく、現実的に住み心地の良い家ができあがるからです。

沖縄建築賞の最高賞を受賞している一級建築士の金城司さんと、新築設計をご一緒した時のことです。施主は風水の良い家をご要望されていました。そして、その家は、風水の「方位」の考え方だと、絶対にいい家が建たないという立地条件でした。沖縄では、南か東

に玄関、北西に水回りを要望される方が多いです。このご要望は、そもそも集落が風水で設計されていれば、良い風水になる可能性があるでしょう。しかし、現在の都市環境では通用しないケースがほとんどです。新築の風水設計では、一枚目の設計図の作成が、成功の鍵を握ります。私は琉球風水の視点から、氣の流れを整え、陰と陽のバランスをとるための重要なポイントをいくつかお話し、設計に取り入れていただくようお願いしました。金城さんが作成されたプランは、一般的な風水の考え方からすると水回りや玄関の方位は逆でした。しかし、私はそのプランを見て、想像以上に素晴らしかったので、感動と喜びいっぱい「すごく氣の流れの良いプランですね」とお伝えしました。私の意見に、金城さんはとても驚かれたそうです。「これまでの風水とは違う。設計をすごい柔軟に考え、この場所の氣の流れとか、風の流れを感じながら計画している。住宅設計の風水のイメージがガラッと変わりました」と言って下さいました。

琉球風水のエッセンスが随所に散りばめられたこのプランは、一発で施主様も気に入って下さいました。さらに、金城さんのこだわりの氣の流れの設計も入り、自然と調和した住み心地の良い家が出来上がりました。もし、施主様が方位にとらわれ、その要望を建築士が聞かなければいけなかったとしたら、全く違う家になったことでしょう。施主様も琉球風水の考え方をご理解くださっていたことが、何よりの成功要因でもあります。

自然と調和する琉球風水の思想を軸に「四神相応」と「陰陽論」を使い、建築・インテリアの設計プランを描くことを「風水空間デザイン」と名付けました。「風水空間デザイン」の技術は斬新です。私の琉球風水講座でも、一級建築士の受講生が「琉球風水に出会わなければ、このプランはとても作成できませんでした」というほどです。また、設計プランの作成が劇的に速くなります。私が作ったプランをインテリアコーディネーターのキャリア15年の受講生に見ていただいた時のことです。プランの作成にかかった時間を話したら「このプランが3時間で描けるんですか！？」と驚かれました。「四神相応」と「陰陽論」という考え方の軸があるので、感覚的ではなく論理的にデザインしています。この考え方の軸を持つことこそが、迷いなくプランを素早く描ける理由です。そして、速いだけではありません。プランのビフォー&アフターを見た後「よくある間取りで改善も難しいと思いましたが、こんなにワクワクする間取りになるんですか」とも驚かされていました。

本書では、新築住宅設計の一連の流れに、安心して風水を取り入れることができるよう、「風水空間デザイン」の全体像をお伝えします。土地選びから、間取り設計、インテリアデザインまで一気通貫。「空間に対する心地よさを言葉にできなかった」というあなたもご安心下さい。「四神相応」と「陰陽論」を理解できると、感覚的なイメージだけの世界から解放され、論理的かつ具体的に言語化できるようになります。「心地よい空間」を作る方法は、琉球風水で氣の流れを整え、調和をとるだけ。建築・インテリアのプロフェッショナルも実際に現場で使うことができる、設計に必要な風水術だけを抽出しました。一人でも多くの方に、自然と調和する心地よい空間を手に入れていただけるよう思いをこめて、この本をお届けします。